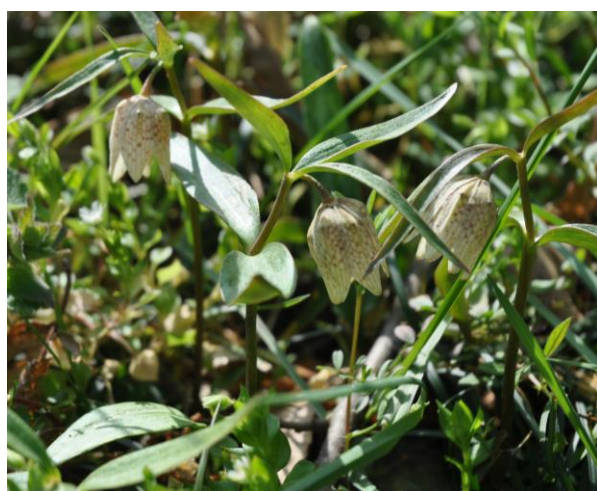


29. ミノコバイモ（ユリ科バイモ属）

Fritillaria japonica Miq.

2015年3月

広葉樹林の林床や林縁に生育する多年草です。地下に径10mm程度の球形の鱗茎があり、半球形の2個の鱗片からなります。茎は細く高さ10~20cmで、葉は披針形~広線形で長さ3~6cm、下の方は対生、上の方は3輪生で、上方の葉は下方に比べ小ぶりで、茎葉とも無毛です。花は3~4月に茎の先に1個つけ、斜め下向きに咲かせます。釣鐘状で外側突起が目立ち、花被片は長さ15~20mm、淡黄色で内面に暗赤紫色の網目模様があり、葯は白色です。まれに白花品種がありシロバナミノコバイモ (*Fritillaria japonica* Miq. forma *alba* H. Hara & Nakai) といいます。日本固有種で本州（関東~近畿）、四国に分布し、兵庫県では西播磨の限られたところに生育する非常に希少な種類です。すべてのコバイモ類は限定された地域に生育する絶滅危惧種で、手厚く保護されているところも多く、ほとんどの種類は和名に地域の名前が冠しています。ミノコバイモは美濃地方（岐阜県）に多く生育することから名づけられたようです。兵庫県版レッドデータブック2010のAランク、近畿版レッドデータブック2001のAランク、日本の絶滅のおそれのある野生生物第4次レッドリストはVUランクに位置するきわめて個体数の少ない種類です。典型的な春植物（スプリングエフェメラル）で、春の限られた期間に開花し、夏までに地上部を枯らすような植物で、本種の西播磨での生育地も落葉広葉樹下で陽光がよく射す環境で、3月下旬ごろが開花期となっています。里地里山の植物で、人手によるネザサなどの刈込管理が必要で、適度な維持管理が行われなければ消滅するような脆弱な環境に生育しています。



ミノコバイモ



シロバナミノコバイモ